

nektar



IMPACT GX MINI

日本語ユーザーガイド

www.hookup.co.jp

目次

イントロダクション	4
同梱内容	4
Impact GX Miniの機能	4
システム条件	4
Impact GX Mini概要	5
さあ、始めましょう	6
接続と電源	6
Nektar DAWインテグレーション	6
汎用コントローラーとしての使用	6
オクターブとパート2ボタン、ジョイスティックとフットスイッチ	7
オクターブシフトボタン	7
パート2ボタン	7
ジョイスティック	7
フットスイッチ	7
MIDIソフトウェアの操作	8
設定 (Setup) メニュー	9
キャンセル - Cancel - C1	9
コントロール情報 (CC) 設定 - Control Assign - C#1	9
プログラムチェンジ設定 - Program Assign - D1	9
グローバルMIDIチャンネル - Global MIDI Ch - D#1	9
キーボードベロシティカーブ - Velocity Curve - E1	10
パニック (オールノートオフ) - Panic - F1	10
パート2ボタン設定 - Transpose Buttons - C2 - D2	10
USBポート設定 - PUSB ort Mode - A2	10
ファクトリーリストア	11
DAW設定ガイド	12
Bitwig Studio	12
Cubase/Nuendo	14
Digital Performer	16
FL Studio	18
GarageBand	20
Live	21
Logic X	23
Mixcraft 7	25
Reaper	26
Reason	28
Sonar	30
Studio One	32
Nektar DAWインテグレーションを使用しないトランスポートコントロール	34
Pro Tools	35

本製品を安全にご使用頂くために、水分や食物などから遠ざけ、動作に影響を及ぼす要素の混入防止に努めてください。機器の外装保護の観点でもそのような環境でのご使用は避けてください。また、本ガイドで解説する範囲内の用途でご使用ください。

注意：本製品は、クラスBのデジタル機器としてのFCC規制のPart 15への適合検査をパスしています。この制限によって、本製品は住宅に設置する際に有害な干渉を防止する適切な保護を提供するよう設計されています。本製品を指示に従って設置および使用しない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こし、電波エネルギーを放射する可能性があります。ただし、特定の設置条件で干渉が発生しないという保証はありません。本製品の使用中、ラジオやテレビの受信において干渉が生じた場合、次のいずれかの方法をお試しください。

- 受信アンテナの向きや位置を変えます。
- 装置と受信機の距離を離します。
- 受信機が接続されているものとは別回路のコンセントに機器を接続します。
- 販売店または経験のある電気または電波技術者に相談します。



Impactのファームウェア、ソフトウェア及びマニュアル等の書類はNektar Technology, Incの財産であり、ライセンス同意によりユーザーに提供されます。日本語に関する情報は、株式会社フックアップの資産であり、Nektar Technology, Incの許可を受けて作成しています。

© 2021 Nektar Technology, Inc. / HookUp, Inc.
NektarはNektar Technology, Inc. の登録商標です。

製品に関する全ての記述及び仕様は予告なく変更することがあります。

クリーニングとメンテナンスについて

- 修理に関する全ての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをご利用ください。
- クリーニング用の化学物や研磨剤は外装に損害を与える可能性があります。

イントロダクション

この度は、Nektar Impact GX Miniをお求め頂き、誠にありがとうございます。

Impact GX Miniは、フルサイズのGXシリーズから受け継いだ必須の機能を備えるモバイルキーボードコントローラーです。多くの主要DAWソフトウェアでご利用いただける設定ソフトウェアも提供されており、これまでにない高いレベルでの操作を実現します。Impact GX Miniをより効果的にお使いいただくために、このガイドを一通りご覧ください。

同梱内容

Impact GX Miniには、以下のアイテムが同梱されています：

- Impact GX Miniコントローラーキーボード本体
- 印刷マニュアル(英語)
- マイクロUSBケーブル
- 1/8"オス to 1/4"メス変換アダプタ
- 付属ソフトウェアのライセンスコードが記載されたカード

同梱物が不足あるいは破損している場合、お手数ですがご購入店あるいは弊社サポートまでご連絡ください。

<https://hookup.co.jp/support/>

Impact GX Miniの主な機能

- ペロシティ対応の25鍵ミニサイズキーボード
- 3つのペロシティカーブ(スタンダード、ソフト、ハード)を選択可能
- 7つのトランスポートボタン
- “Shift”ボタンによる追加機能へのアクセス、計14のボタン機能を提供
- ピッチバンドと2つの(設定変更可能の)モジュレーションコントロールを扱うジョイスティック
- オクターブシフトボタン(アップ/ダウン、LED照明付き)
- パート2LEDボタン(アップとダウン、キーボードのリアルタイムシフト、MIDIノートレイヤーなど)
- USBポート(USBバス電源対応)
- 1/8"フットスイッチ端子(1/4"標準ジャック変換アダプタ付き)
- Apple Lightning - USB 3カメラアダプタ(別売)などを介し、iOSデバイスとの接続に対応
- Nektar DAWインテグレーション

システム条件

Impact GXは、USBクラスコンプライアントのMIDI機器として、この規格をサポートするWindowsまたはmacOS環境で扱えます。DAWインテグレーションに関しては、連携するDAWの動作条件に従います。

*システム条件内であっても、あらゆる環境下での動作を保証するものではありません。

*メーカーサポートが終了したシステム環境については、サポート対象外となります。

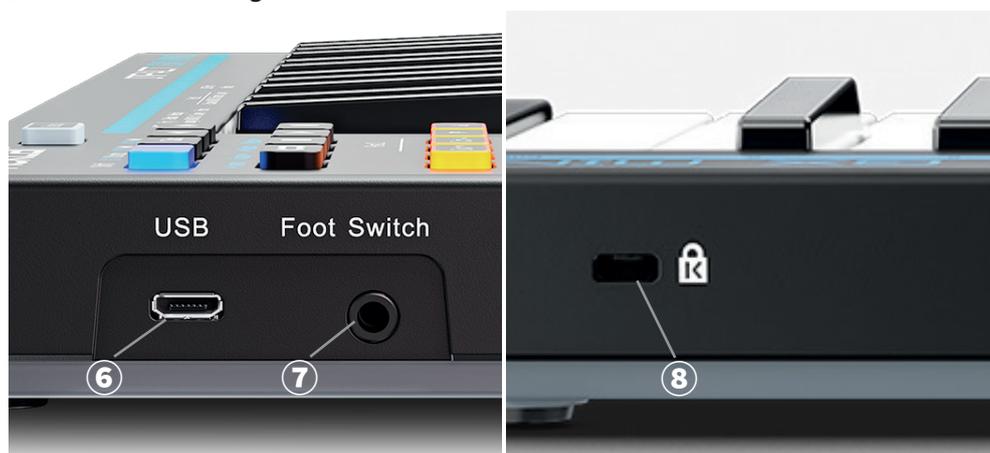
*DAWインテグレーションは、お使いのDAWソフトウェアのシステム条件もあわせてご確認ください。

IMPACT GX miniの概要

Impact GX Miniの各部呼称とその概要です。



- ① **トランスポートボタン**:7つのボタンは、DAWインテグレーション時のトランスポート(再生、停止、録音)などの操作に使用します。これらのボタンは、“Shift”ボタンとの併用で別の機能にアクセスします。
- ② **設定(Setup)ボタン**:設定モードに入る際に使用します。
- ③ **鍵盤**:ペロシティ対応のキーボードです。各種設定時のスイッチとしても使用します。
- ④ **ジョイスティック**:ピッチベンド(左右)と2つのモジュレーション(上下)操作に使用します。
- ⑤ **オクターブシフト(Oct)とパート2(Part 2)ボタン**:2つのオクターブボタンは、実際に鍵盤で演奏可能な音域を設定する際に使用します。2つのパート2ボタンは、コンパクトなImpact GX miniの演奏表現を豊かにする特別な機能です。数オクターブ分を一気に上下する、瞬間的にトランスポートする、別のMIDIチャンネルへ切り替える、といったことが瞬時に行えます。
- ⑥ **Foot Switch(フットスイッチ)端子**:別売フットスイッチを接続するための3.5mm(1/8")端子です。付属の変換アダプタを使用することで、標準(1/4")プラグのフットスイッチと接続可能です。ペダルの極性は、本機の電源投入時に自動で検知されます。通常、サスティペダルに関するMIDI情報を扱います(MIDI設定の変更可能)。
- ⑦ **USB端子**:コンピューターと接続するためのミニサイズのUSB端子です。このポートでコンピューターとのデータ転送とコンピューターからの電源供給を受けます。
- ⑧ **ケンジントン(Kensington)ロック**:市販の防犯用ケンジントンロックに対応するポートです。



さあ、始めましょう

接続と電源

Impact GX Miniは、USBクラスコンプライアントに準拠したMIDI機器です。そのため、特別なドライバソフトウェアのインストールを必要とせず、コンピューターとのUSB接続を行うだけで動作します。また、動作に必要な電源も、コンピューターのUSBポートから供給を受けます。

接続方法は簡単です：

- サステインペダルを使用する場合は、電源投入前にImpact GX Miniのフットスイッチ端子に接続します。
- 付属のUSBケーブルを使用し、Impact GX Miniとコンピューターを接続します。

初めてコンピューターに接続した場合、本機の認識に少し時間を要します。

Nektar DAWインテグレーション

お使いのDAWソフトウェアがNektar DAWインテグレーションに対応している場合、専用の設定ソフトウェアをご用意しています。以下のリンク先よりダウンロードの上、インストールを行ってください。これにより、シンプルな設定で高度なDAWコントロールが実現します。

最新版のソフトウェアを入手するには、Nektar社ウェブサイト（英語）での製品登録が必要となります：

www.nektartech.com/registration

すでにNektarアカウントをお持ちの場合はサインインを行ってください。

重要なお知らせ：設定に関する情報はウェブページ、あるいはダウンロードしたフォルダ内にPDFファイルとして含まれます。

Impact GX Miniを汎用のMIDIコントローラーとして使用する場合

Impact GX Miniは、汎用MIDIキーボードとして、macOS、Windows、iOS環境でお使いいただけます。いくつかのソフトウェアでは追加のファイルをコンピューターにインストールすることで連動することが可能となるものもあります。

オクターブとパート2ボタン、ジョイスティックとフットスイッチ

Impact GX Miniの鍵盤はペロシティに対応しており、ダイナミックな演奏が可能です。ペロシティカーブは、演奏スタイルに合わせて3種類が用意されています。Impact GX Miniのペロシティカーブ設定の手順や詳細については、このガイドの10ページに記載しています。

オクターブ (Octave) シフト

鍵盤の左横には、キーボードの演奏音域を変更するための、“Octave”ボタンが用意されています。

- 左側の“Oct▼”ボタンを押すことで、キーボードの音域が1オクターブ下がります。
- 右側の“Oct▲”ボタンを押すことで、キーボードの音域が1オクターブ上がります。
- ボタン操作の繰り返しに応じて音域をさらに上下させることができます。
- 2つのボタンを同時に押すことで、オクターブ範囲がデフォルト状態に戻ります。

最大で下4オクターブ/上5オクターブまでシフトすることが可能です。

オクターブ範囲	LEDカラー	オクターブ範囲	LEDカラー
0	橙 (Oct+ とOct -の両方)	+1	橙 (Oct+ のみ)
-1	橙 (Oct -のみ)	+2	緑 (Oct+ のみ)
-2	緑 (Oct -のみ)	+3	赤 (Oct+ のみ)
-3	赤 (Oct -のみ)	+4	黄 (Oct+ のみ)
-4	黄 (Oct -のみ)	+5	橙 (Oct+ のみ)

パート2 (Part 2)

オクターブボタンの右隣には、さまざまな操作に使用できる「パート2」ボタンが用意されています。ボタンを押すと、あらかじめ定義された設定が適用され、離すと元の設定に戻ります。このパート2機能によって、数オクターブ分を一気に上下する、瞬間的にトランスポーズする、別の MIDI チャンネルへ切り替える、といったことを瞬時に行えます。

デフォルトでは、2オクターブ上と2オクターブ下の一時的なハーモニーシフトが設定されています。実際に演奏をしながらご確認ください。設定変更の方法と設定可能な機能の詳細については、10ページに記載しています。

ジョイスティック

“Oct”と“Part 2”ボタンの下には、ジョイスティックが用意されています。ジョイスティックは、左右方向の操作でピッチベンド、上下方向の操作で2種類のモジュレーション情報の操作が可能です。

ピッチベンドは、MIDIのピッチベンド情報を操り、演奏ノートの音程を上下させる操法時に使用します。ベンドレンジはこの情報を受け取る音源側で設定を行います。

モジュレーション操作は、MIDIコンティニューアスクントローラー (CC) の情報を送信します。一般的には、ピブラートの深さやフィルターの開閉に使用されます。音源によってはダイナミクスコントロールやエフェクトの深さに関する設定が割り当てられる場合もあります。通常、上方向の操作はMIDI規格で定められたModulation (MIDI CC #1) を扱います。下方向の操作は、MIDI規格で定められたFoot Pedal MSB (MIDI CC #4) を扱います。いずれも、別のMIDI情報を割り当てることが可能です。

フットスイッチ

Impact GX Miniはフットスイッチ端子を備えており、別売のフットスイッチを接続することで、サスティンペダルなどとしてお使いいただけます。フットスイッチの極性は、本機の電源投入時に自動検知されます。以下の手順で接続を行います：

- Impact GX Miniの電源を切ります。
- 付属のアダプタを使い、フットスイッチを接続します。
- Impact GX Miniの電源を入れます。

MIDIソフトウェアの操作

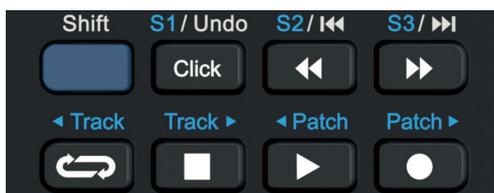
Impact GX Miniは、DAWやMIDIソフトウェアを柔軟に扱えるよう設計されていますが、多彩な機能を快適に利用するため、あらかじめお使いのソフトウェアや環境に合わせた設定を行う必要があります。

- お使いのDAWに対応するインテグレーションファイルをインストールし、設定を行います。
- DAW (や音源) のラーン機能で設定を行います。
- Impact GX Miniのコントロールをお使いのソフトウェアに合わせて設定を行います。

Nektarが提供するDAWインテグレーションファイルを使用する場合、PDFガイドの記載に従ってインストールと設定を行います。

トランスポートボタン

Impact GX Miniのトランスポートボタンは、対応DAWの再生、停止などの基本的な操作以外に、“Shift”ボタンの併用で、トラックやプラグインのプリセット切り替え、その他の操作に使用することもできます。詳細は、各DAWのガイドの項目に記載しています。



トランスポート + シフトボタン操作

Impact GX Miniのトランスポートボタンは、汎用のMIDIスイッチとしても機能し、“Shift”ボタンとの併用で合計14のスイッチとして機能します。

これらのスイッチは、ソフトウェアのMIDIラーン機能を使うと簡単に設定を行えますが、必要に応じてImpact GX Miniの設定メニューでお好みのMIDI情報を割り当てることも可能です。

設定 (Setup) メニュー

設定メニューは、各種追加機能にアクセスする際に使用します。設定を行うには、まず“Setup”ボタンを押し、次にパネル上に印字された箇所の鍵盤を押します。



Impact GX Miniでは選択したメニューに応じ、数値設定が必要な場合に黒鍵が数値入力モードへと切り替わります。負の数値を設定する必要がある場合は、C#1 = 0/- を使用します。例えば、2オクターブ下を設定する場合は、C#1 (-)、F#1 (2)、C3 (Enter) の順番に押します。

*各メニューの詳細に関する記述はMIDIに関してご理解頂いていることを前提にしています。もしMIDIの役割や、用語、基礎的な知識に関してご不明の場合は、コントロール設定をされる前にMIDIに関する理解を深められることをお勧めします。例えば、ご利用のソフトウェアのMIDIに関する記述を確認することは、用語や役割など、必要な知識を知るためのきっかけとして、有効な手段のひとつです。

設定メニューに入ると鍵盤のMIDIノート出力はミュートされます。

以下、各メニューの詳細と設定方法です：

設定のキャンセル - Cancel - 鍵盤：C1

鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で確定する前に、設定値をキャンセルします。

コントロール情報 (CC) 設定 - #CC Assign - 鍵盤：C#1

このメニューは選択したコントローラーのMIDI CCの変更に使用します。

Impact GX Mini上のコントローラーのほとんどがMIDI CCの設定に対応します。設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：C#1 (#CC Assignとパネル印字されています) を押します。
- 目的のコントローラーを操作します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で目的のCC# (0 ~ 127) を入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

プログラムチェンジ設定 - Program Assign - 鍵盤：D1

MIDIプログラムチェンジを送信します。プログラムチェンジは特定のボタン操作で行うことが可能です。設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：D1 (Prg Assignとパネル印字されています) を押します。
- 目的のコントローラー (ボタン) を操作します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で目的のプログラム番号 (0 ~ 127) を入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

注意：機器によってはプログラム番号の表示が異なります。0 - 127ではなく、1 - 128の表示を使用する場合、MIDIプログラムチェンジの0 = 機器のプログラム1番、つまり“1”を足した番号の呼び出しになることを覚えておきましょう。

MIDIチャンネル設定 - Global MIDI Channel - 鍵盤：D#1

設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：D#1 (Global MIDI Chとパネル印字されています) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤：C#1 - A#2で目的のMIDIチャンネルCC# (1 ~ 16) を入力し、右端の鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

キーボードベロシティカーブ - Velocity Curve - 鍵盤:E1

Impact GX Miniの鍵盤は、演奏タッチに合わせて3種類のベロシティカーブを選ぶことができます。下表は各設定に関する情報です：

カーブ	設定番号	概要
Normal / ノーマル	1	中間から高いベロシティが強調される一般的なカーブです。
Soft / ソフト	2	最もダイナミック(強いタッチが必要)なカーブです。
Hard / ハード	3	柔らかいタッチで簡単に高いベロシティを出力するカーブです。

設定手順は次の通りです：

- 鍵盤：E1 (Velocity Curveとパネル印字されています) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤:C#1- A#2で目的のカーブ設定 (1 ~ 3) 入力し、右端の鍵盤:C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。

パニック(オールノートオフ) - Panic - 鍵盤:F1

この機能は、すべてのMIDIチャンネルにオールノートオフとリセットオールコントローラーの情報を送信する際に使用します。音源が鳴りっぱなしになるなどのトラブルの際に有用です。実行は、設定メニューに入り、F1の鍵盤 (Panicとパネル印字されています) を押します。情報送信後、設定メニューは自動解除されます。

パート2ボタン設定 - Part 2 - Octave / Chan. / Transp. / Layer - 鍵盤:G1 / G#1 / A1 / A#1

パート2ボタンの設定を行います。パート2ボタンを押すと、事前の設定に従った機能が実行されます。パート2ボタンでは、下表に示された4つの項目を設定することができます。下表は各設定に関する情報です：

鍵盤	ラベル - 機能	設定範囲	備考
G1	Octave - オクターブオフセット	±8オクターブ	入力ノートのオクターブオフセット設定です。
G#1	Chan. - MIDIチャンネル	0-16、0 = グローバルチャンネル	パート2を別音源で鳴らす際に使用します。
A1	Tansp. - トランスポーズオフセット	±12半音 (semitone)	入力ノートの半音単位のオフセット設定です。
A#1	Layer - パート2レイヤーの有効	オン / オフ	パート2の一時的なオン / オフを設定します。

設定手順は次の通りです：

- 設定メニューに入ります。
- 設定対象のボタン (Part 2 “▼” / “▲”) を押します。
- 目的とする機能の鍵盤 (G1 ~ A#1) を押します。
- 数字 (0 - 9) がパネル印字された鍵盤:C#1- A#2で設定値を入力し、右端の鍵盤:C3 (Enterとパネル印字されています) で決定します。
- これらの機能は複合して使用できますので、目的に応じて、上記の操作を繰り返します。

パート2機能の設定と活用例：

単純にキーボードの演奏範囲を2オクターブ上にシフトする場合、Oct=2、Chn.=0、Transp=0、Layer=Offに設定します。この設定で、Layerをオンにすると、同じ音で2オクターブ上のハーモニイズ演奏になります。

チャンネルを別のチャンネルに変更して、別の音源にこの信号を送ることで、別の音で2オクターブ間のユニゾンで演奏できます。あるいはオクターブを0に設定し、トランスポーズを+7に設定すると、長5度でハーモニーを演奏できます。

USBポート設定 - USB Port Mode - 鍵盤:C2

Impact GX Miniは、1つの物理USBポートを装備していますが、コンピューターでは2つのUSB MIDIポートを持つデバイスとして認識されます。メインのポートは鍵盤からのノート情報、汎用のコントローラー情報を扱い、追加ポートは必要に応じてDAWソフトウェアで使用します。この設定は、特定のDAWソフトウェアに対して行います。設定が必要となる場合、その手順含めウェブサイトおよびPDF版のDAW設定ガイドにて解説します。

ファクトリーリストア

以下の操作でImpact GX Miniを工場出荷時の状態に戻すことができます：

- 2つのオクターブボタン(“Oct ▼” / “Oct ▲”)を押しながら、Impact GX miniの電源を入れます。
- リセットを確実にを行うため、電源投入後はボタンを約3秒ほど押したままにします。

この操作は、最初から設定をやり直す際にも便利です。

DAW設定ガイド - Bitwig

Impact GX Miniは、Bitwigインテグレーションファイルで Bitwig Studio 及び Bitwig 8-Track と連動し、Windows 7 以降または OS X 10. 11以降の環境で動作します。

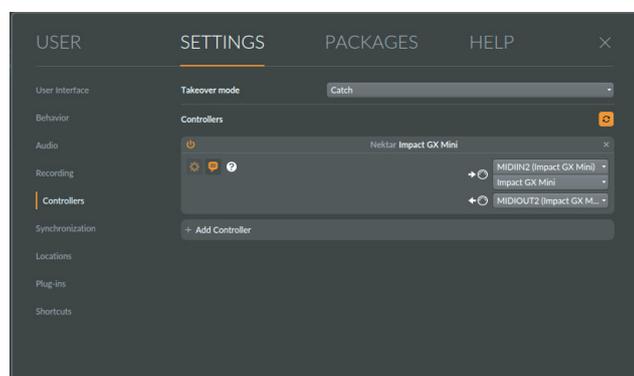
設定

Impact GX MiniとBitwig Studio、Bitwig 8-Trackの設定は以下の通りです：

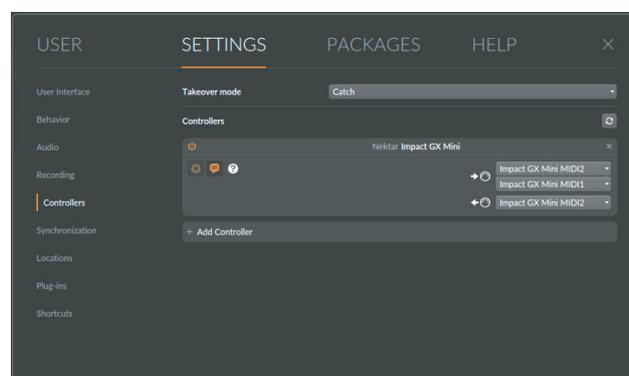
- あらかじめBitwigのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはBitwig自体の動作に必要なファイルをインストールするための作業となります。
- 次に、Bitwigを終了した状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Bitwig_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Bitwigを起動し、ダッシュボード（画面上端中央のBitwigロゴのクリック）から、設定 (SETTINGS) タブを選び、コントローラー (Controllers) ページを開きます。
- “+ Add Controller”をクリックし、Impact GX miniを設定します。
- 完了したら、“ADD”ボタンをクリックして、コントロールデバイスとして追加します。

画面例のようになっていれば、設定完了です：

Windows



macOS



インストゥルメントの演奏

Bitwigのデフォルトソングは、インストゥルメント（音源デバイス）が設定されていません。Impact GX Miniによって音源を演奏するための手順は以下の通りです：

- Bitwigの右サイドパネルからデバイスブラウザから、PolysynthやFM-4などのインストゥルメントを選びます。
- 選択したデバイスをアレンジメント画面にドラッグ&ドロップします。
- インストゥルメントが追加されたトラックを選択すると、Impact GX Miniで演奏することができます。

DAW設定ガイド - Bitwig と Impact GX Mini

Bitwig StudioまたはBitwig 8-Trackでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はBitwigの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーレーンを開く/閉じる	Shift + Click	アンドゥ (Undo)
⏮	1小節巻戻し	S2	デバイスチェーンを開く/閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	1小節早送り	S3	ブラウザを開く/閉じる*	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル (ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	選択デバイスの前パッチ	Shift + ▶	オーバーダブモードランチャー (Launcher)
●	録音	Patch ▶	選択デバイスの次パッチ	Shift + ●	オーバーダブモードアレンジャー (Arranger)

*選択トラックにデバイスが設定されている場合のみ機能します。

DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo

Impact GX Miniは、Cubaseインテグレーションファイルでバージョン5以降のCubaseと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.6以降の環境で動作します。ここではCubaseで解説をしていますが、Nuendoでも同様の設定となります。

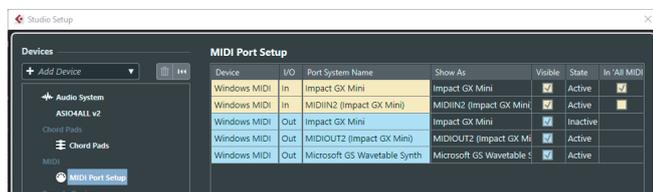
設定

Impact GX MiniとCubaseの設定は、以下の通りです：

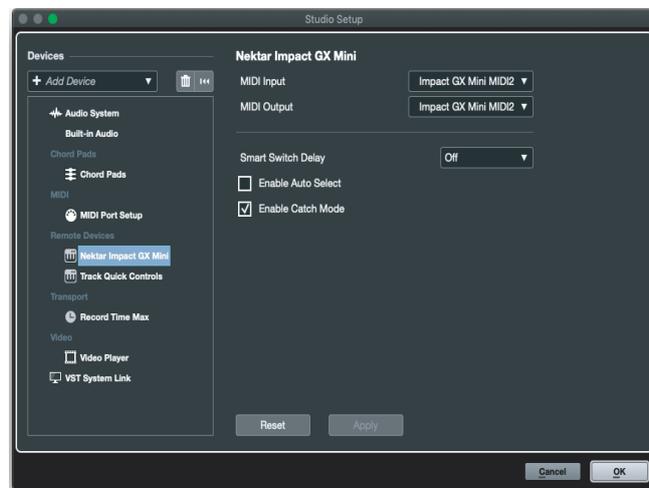
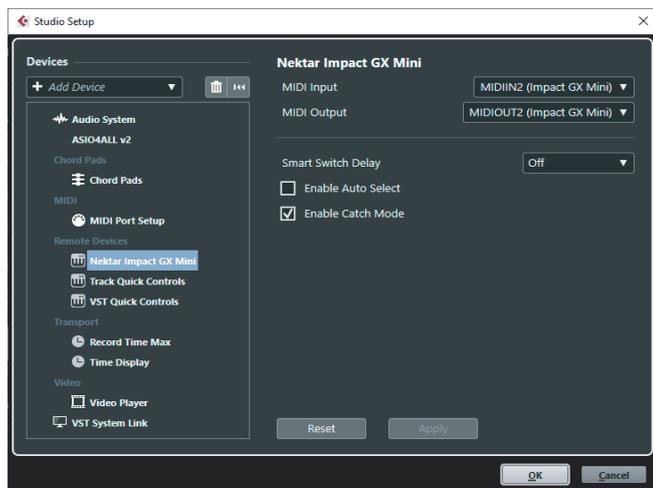
- Cubaseを起動していない状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Steinberg_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Cubaseを起動し、デバイス > デバイス設定 > MIDIポートの設定を開きます。
- Impact GX Miniの2番目の入力ポート (Windows = “MIDIIN2 (Impact GX Mini)”、Mac = “Impact GX Mini Port 2”) で、“In ‘All’ MIDI” 欄のチェックを外します。
- Impact GX Miniがリモートデバイスの箇所にリストに表示されていることを確認します。
- 正しく設定されていることを確認したら、“OK” ボタンをクリックしてデバイス設定を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます：

Windows



macOS



DAW設定ガイド - Cubase/Nuendo と Impact GX Mini

Cubase/Nuendoでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はCubase/Nuendoの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーの表示/非表示	Shift + Click	アンドウ(Undo)
⏮	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く/閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	1小節早送り	S3	チャンネルストリップを開く/閉じる	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル(ループ)オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止、再操作でゼロポジションに戻る	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメントパッチ*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメントパッチ*	Shift + ●	オーバーダブモード

*全てのVSTインストゥルメントでパッチ切り替えを行えるわけではありませんが、ほとんどのSteinbergプラグインは対応しています。まずは、Cubase/Nuendo標準装備のプラグインでご確認ください。

DAW設定ガイド - Digital Performer

Impact GX Miniは、MOTUインテグレーションファイルでバージョン8以降のDigital Performerと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.11以降の環境で動作します。

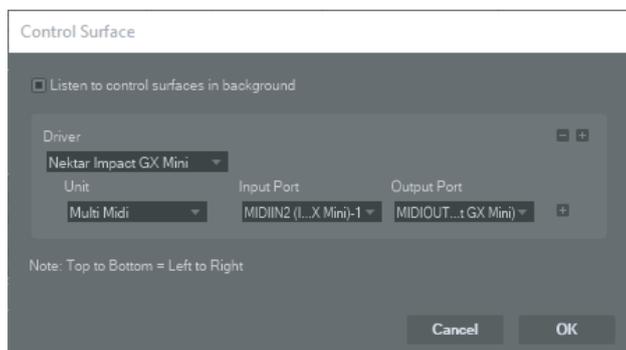
設定

Impact GX MiniとDigital Performerの設定は、以下の通りです：

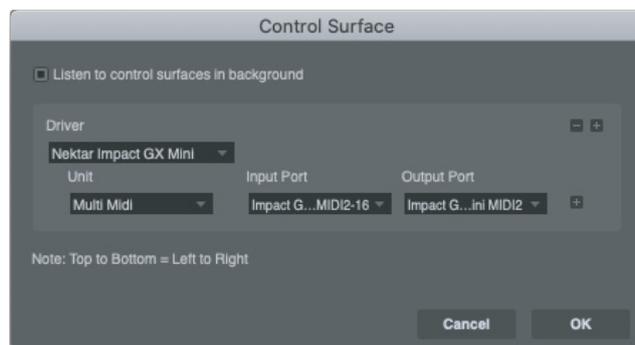
- Digital Performerを起動していない状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_MOTU_supportのインストーラーを実行し、画面に従って、インストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Digital Performerを起動し、プロジェクトの作成、もしくは既存プロジェクトを開きます。
- セットアップメニューからコントロールサーフェスの設定...を開きます。
- “+”アイコン（アウトポートの右横）をクリックし、デバイスを追加します。
- “ドライバ”の項目から、Nektar Impact GX Miniを選択します。
- “ユニット”の箇所はMulti MIDIを設定します。
- “インポートポート”に2番目のポート（Windows = MIDIIN2 (Impact GX Mini)、Mac = Impact GX Mini Port 2-16）を設定します。
- “アウトポートポート”は1番目のポート（Windows = Impact GX Mini、Mac = Impact GX Mini Port 1）を設定します。
- 完了したら、“OK”をクリックしてコントロールサーフェス設定画面を閉じます。

正しく設定されると画面例のように表示されます：

Windows



macOS



DAW設定ガイド - Digital Performer と Impact GX Mini

Digital Performerでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はDigital Performerの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く/閉じる	Shift + Click	取り消し(Undo) やり直し(Redo)
◀◀	巻戻し 再操作で停止	S2	インストゥルメントを 開く/閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	早送り 再操作で停止	S3	設定なし	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメント パッチ	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメント パッチ	Shift + ●	オーバーダブモード

DAW設定ガイド - FL Studio

Impact GX Miniは、バージョン11.2以降のFL Studioと連動します。

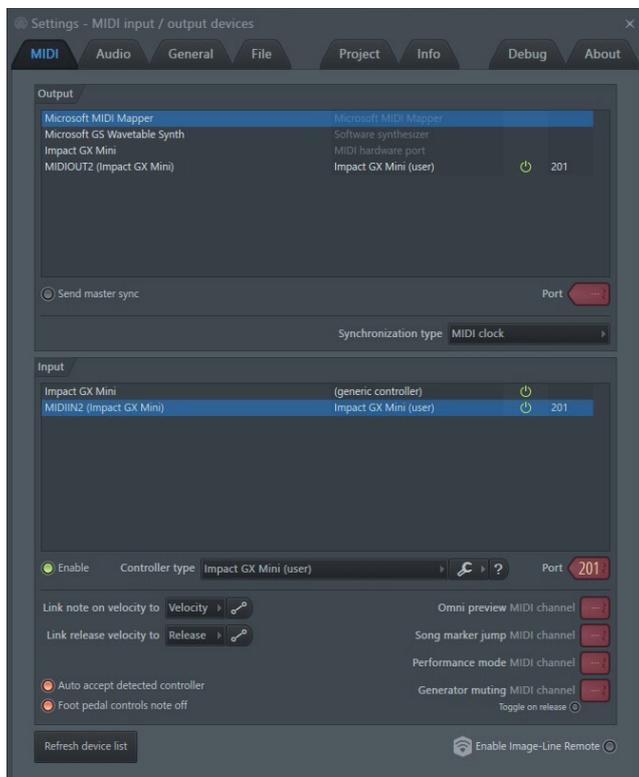
設定

Impact GX MiniとFL Studioの設定は以下の通りです：

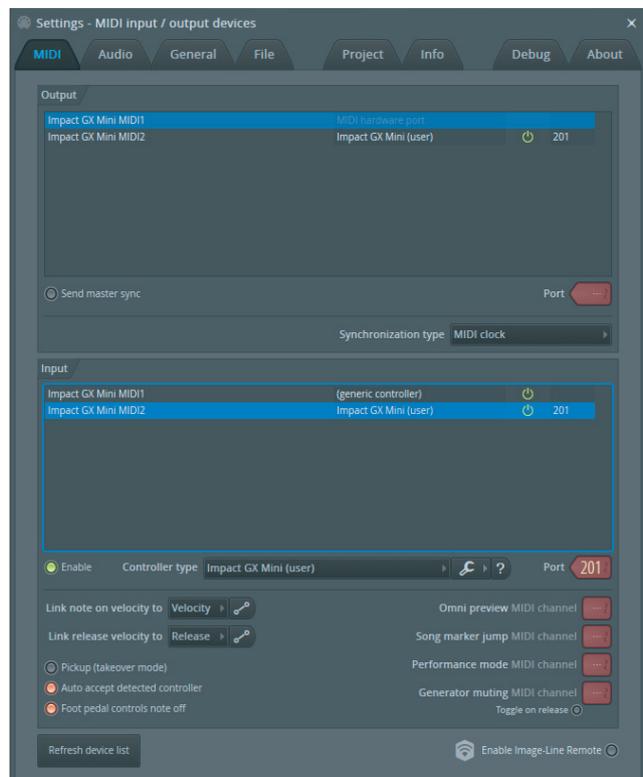
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- FL Studioを起動し、OptionsメニューからMIDI Settingsを開きます。
- Impact GX Miniのポートを画面例の通りに設定されます。ポートが表示されない場合は画面下の“Rescan devices”をクリックします。
- Outputの欄で、Windows = MIDIOUT2 (Impact GX Mini)、Mac = Impact GX Mini (MIDI2)を選択し、Portを"201"に設定します。
- Inputの欄で、Impact GX Miniの入力ポートを有効(Enable)にし、Controller Typeを“(generic controller)”に設定します。
- 続いて、MIDIIN2 (Impact GX Mini)を有効にし、Controller Typeを“Nektar Impact series”を選択し、portを"201"に設定します。
- 設定完了後、画面を閉じて、MIDI設定を閉じます。

以上で設定は完了です。コントローラーを操作して正しく設定されているかどうかを確認してください。

Windows



macOS



DAW設定ガイド - FL Studio と Impact GX Mini

FL Studioでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はFL Studioの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てください。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	設定なし	S1	ミキサーを開く／閉じる	Shift + Click	設定なし
◀◀	巻戻し(押している間)	S2	インストゥルメントを開く／閉じる	Shift + ◀◀	低速再生
▶▶	早送り(押している間)	S3	設定なし	Shift + ▶▶	高速再生
↺	サイクル(ループ)オン／オフ	◀ Track	前ミキサートラック選択	Shift + ↺	設定なし
■	停止	Track ▶	次ミキサートラック選択	Shift + ■	アンドゥ(Undo)
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前チャンネル	Shift + ▶	メトロノームオン／オフ
●	録音	Patch ▶	次チャンネル	Shift + ●	前面(フォーカス)以外の画面を閉じる

DAW設定ガイド - GarageBand

Impact GX MiniのAppleインテグレーションは、バージョン10以降のGarageBandと連動します。

設定

Impact GX MiniとGarageBandの設定は以下の通りです：

- GarageBandを起動していない状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Garageband_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- GarageBandを起動し、新しいプロジェクトを作成します。
- オーディオまたはソフトウェア音源トラックを作成します。

以上で設定完了です。

GarageBandの操作

GarageBandでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はGarageBandの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ライブラリを開く/閉じる	Shift + Click	取り消し(Undo)
⏮	1小節巻戻し、押したままで連続巻戻	S2	Apple Loopsを開く/閉じる	Shift + ⏮	ループを前に
⏭	1小節早送り、押したままで連続早送	S3	スマートコントロールを開く/閉じる	Shift + ⏭	ループを先に
🔄	サイクル(ループ)オン/オフ	◀ Track	上のトラックを選択	Shift + 🔄	左ループポイントを設定*
■	停止	Track ▶	下のトラックを選択	Shift + ■	右ループポイントを設定*
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメントパッチ	Shift + ▶	アルペジエーターオン/オフ
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメントパッチ	Shift + ●	設定なし

*ループ/サイクルエリアがあらかじめ設定されている場合のみ機能します。

DAW設定ガイド - Live

Impact GX Miniは、Abletonインテグレーションファイルでバージョン6以降のAbleton Live と連動し、Windows 7 以降または OS X 10. 11以降の環境で動作します。

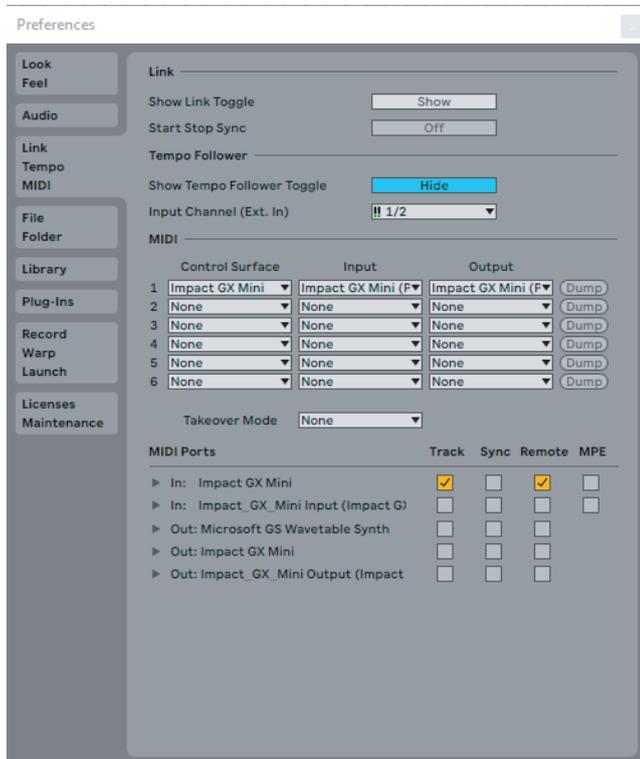
設定

Impact GX MiniとLiveの設定は以下の通りです：

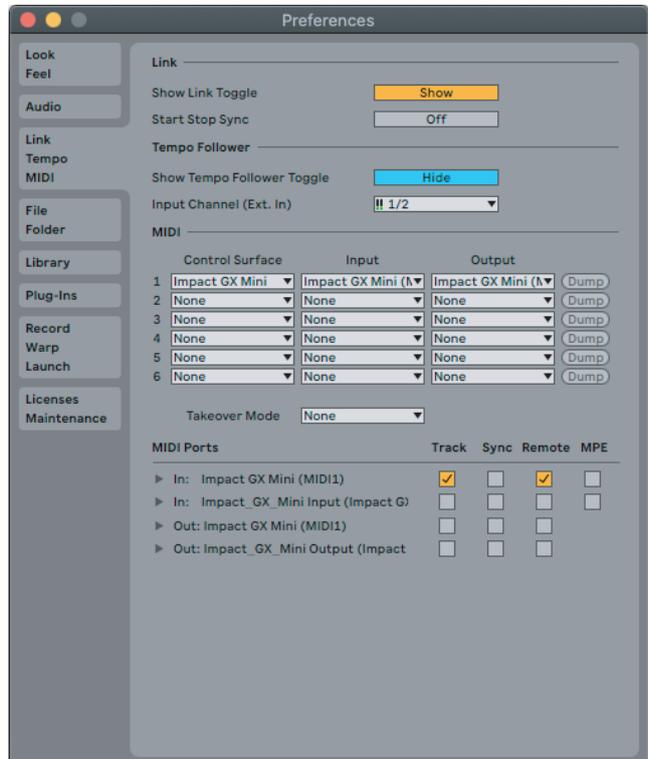
- あらかじめLiveのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはLive自体の動作に必要なファイルをインストールするための作業となります。
- 次に、Liveを終了した状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Ableton_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Liveを起動し、環境設定 (Preferences) パネルを開き、“Link Tempo MIDI”タブを開きます。
- MIDI項目の“コントロールサーフェイス”の箇所、Impact LX Miniを選択します。
- そして、同じスロットの入力をImpact GX Mini (Port2)、出力をImpact GX Mini (Port2)、に設定します。
- さらにMIDI Portsの項目で、“In: Impact GX Mini”の箇所、トラックとリモートの箇所にチェックを入れます。
- 完了後、設定を適用するためにLiveを終了し、再起動します。

画面例のようになっていれば、設定完了です：

Windows



macOS



DAW設定ガイド - Live と Impact GX Mini

Ableton Liveでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はLiveの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	アレンジャーとセッションビューの切替	Shift + Click	取り消し (Undo)
◀◀	1小節巻戻し、 押したままで連続巻戻	S2	クリップとデバイビューの切替	Shift + ◀◀	ループスタートに移動
▶▶	1小節早送り、 押したままで連続早送	S3	ブラウザを 開く/閉じる*	Shift + ▶▶	ループエンドに移動
↺	サイクル (ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	ループスタートを設定
■	停止、再操作でゼロポ ジションに戻る	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	ループエンドを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	ブラウザ操作 - 上*	Shift + ▶	キャプチャーと再生
●	録音	Patch ▶	ブラウザ操作 - 下*	Shift + ●	録音アームのオン/オフ

*移動のみとなります。選択するにはコンピューターキーボードの“Enter”キーを押します。

DAW設定ガイド - Logic

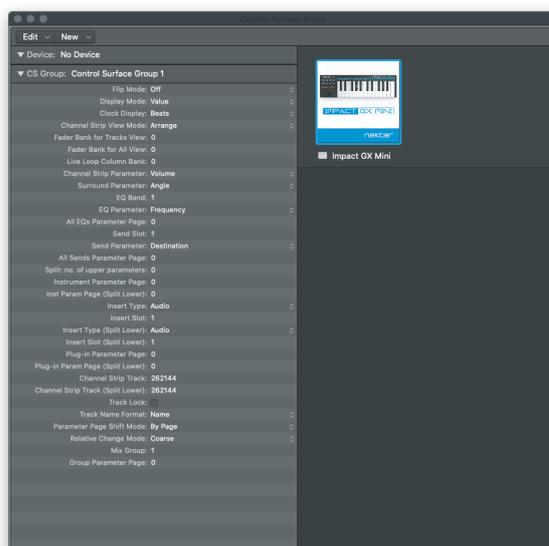
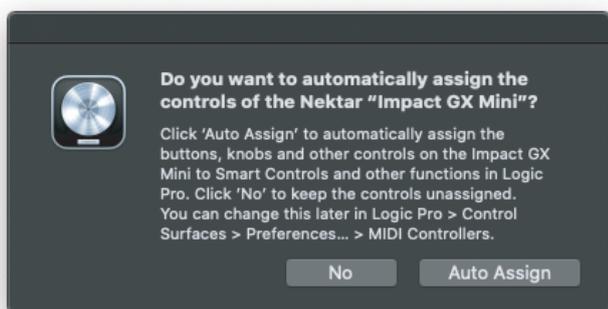
Impact GX MiniのAppleインテグレーションは、バージョン10.6以降のLogicと連動し、macOS 10.15以降の環境で動作します。

設定

Impact GX MiniとLogicの設定は以下の通りです：

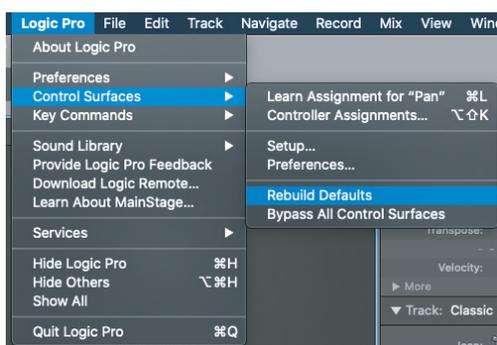
- Logicを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Apple_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Logicを起動し、プロジェクト、そして最低でもトラックを一つ作成します。
- Logicは初回起動時にコントロールサーフェスの自動認識に関する画面を表示します。問題がなければ自動割り当てを選択してください。
- もしも予期せぬ動作となった場合は、Logicのメニューから“コントロールサーフェス”、そして“デフォルトに戻す”をお試しください。

以上で設定完了です。



トラブルシューティング

もしも予期せぬ動作となった場合は、Logicのメニューから“コントロールサーフェス”、そして“デフォルトに戻す”をお試しください。



DAW設定ガイド - Logic と Impact GX Mini

Logicでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はLogicの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを試してみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く/閉じる	Shift + Click	取り消し(Undo)
◀◀	1小節巻戻し、 押したままで連続巻戻	S2	ソフトウェア音源を 開く/閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り、 押したままで連続早送	S3	スマートコントロールを 開く/閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメント パッチ*	Shift + ▶	アルペジエーターの オン/オフ
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメント パッチ*	Shift + ●	録音可能

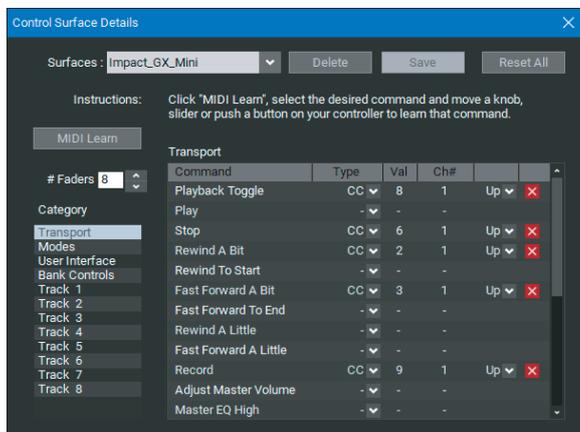
*パッチとは、LogicのAUユーザプリセットのことです。少なくとも2つ以上のプリセットがLogicに保存されている必要があります。

DAW設定ガイド - Mixcraft 7

Impact GX Mini と Acoustica Mixcraft 7 を連動させるには以下の手順に従います：

- ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX_Mini.csv を展開し、以下の場所に置きます。
c:\ProgramData\Acoustica\Mixcraft\control-surfaces
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Mixcraft を起動し、Mixcraft メニューから Mix/MIDI Control Surface で Impact GX がコントロールサーフェスとして表示されているかを確認します。

正しく見えていれば、設定は完了です。



Mixcraft の操作

Mixcraftでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はMixcraftの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	メトロノームのオン/オフ	S1	アンドゥ (Undo)	Shift + Click	設定なし
⏮	若干巻戻し	S2	前のマーカーから再生	Shift + ⏮	設定なし
⏭	若干早送り	S3	次のマーカーから再生	Shift + ⏭	設定なし
🔄	サイクル (ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + 🔄	設定なし
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	設定なし
▶	再生	◀ Patch	表示縮小	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	表示拡大	Shift + ●	設定なし

DAW設定ガイド - Reaper

Impact GX MiniはReaperインテグレーションファイルで、バージョン4.59以降のReaperと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.11以降の環境で動作します。

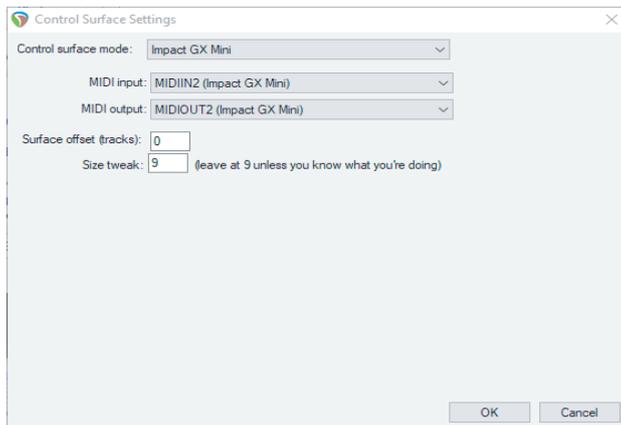
設定

Impact GX MiniとReaperの設定は以下の通りです：

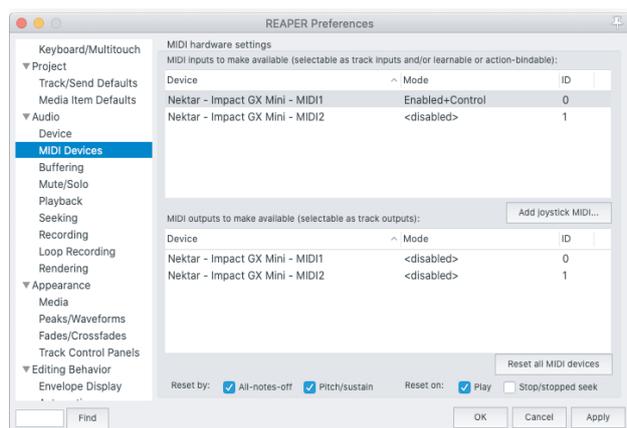
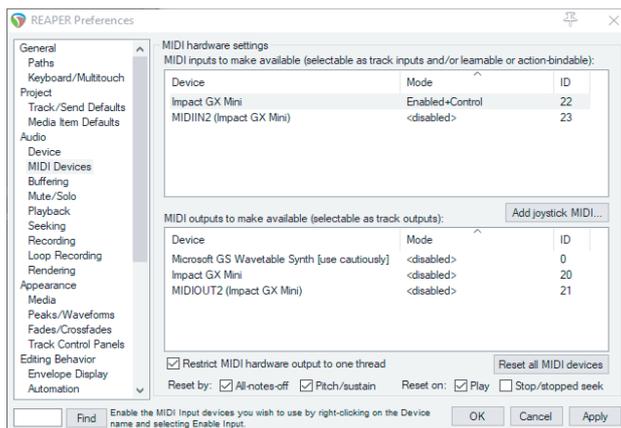
- あらかじめReaperのインストールを完了し、最低でも一度起動しておきます。これはReaper自体の動作に必要なファイルをインストールするための作業となります。
- 次に、Reaperを終了した状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Reaper_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reaperを起動し、Optionsメニューから、Preferences > Control Surfacesを開きます。
- “Add”をクリックし、ポップアップ画面でImpactを“Control surface mode”のリストから選び、ReaperがImpactを検知し、ポート類の設定が適切に自動設定されていることを確認した後に、“OK”をクリックして画面を閉じます。
- 続いて、Preferences > Audio/MIDI Devicesで、Impactのポート1を有効にします。このモードは“Enable+Control”になっている必要があります。残りのポートはオフにします。
- “Apply”をクリックし、設定を適用します。

画面例のようになっていれば、設定完了です：

Windows



macOS



DAW設定ガイド - Reaper と Impact GX Mini

Reaperでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はReaperの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く/閉じる	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し、 押したままで連続巻戻	S2	インストゥルメントを 開く/閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り、 押したままで連続早送	S3	チャンネルストリップを 開く/閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前インストゥルメント プリセット*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	次インストゥルメント プリセット切り替え*	Shift + ●	選択トラックの 録音待機(アーム)

* パッチとは、Reaperのユーザプリセットのことです。少なくとも2つ以上のプリセットがReaperに保存されている必要があります。

DAW設定ガイド - Reason

Impact GX Miniは、Reasonインテグレーションファイルでバージョン6以降のReasonと連動し、Windows 7以降またはOS X 10.11以降の環境で動作します。

設定

Impact GX MiniとReasonの設定は以下の通りです：

- Reasonを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Reason_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開きます。
- “コントローラーを自動設定”をクリックし、しばらく待ちます。
- Reasonのコントローラー画面にImpact GXが表示され、“Reasonで使用する”がチェックされていることを確認します。
- 環境設定画面を閉じて、設定を終了します。

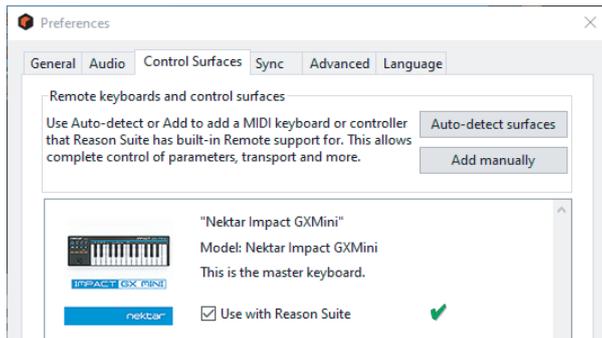
以上で設定は完了です。

手動設定

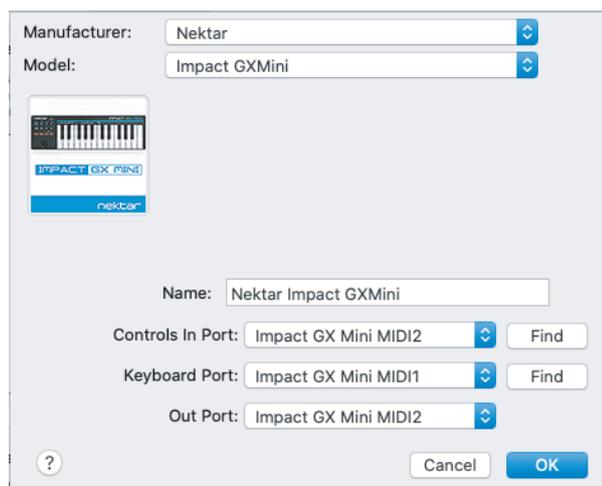
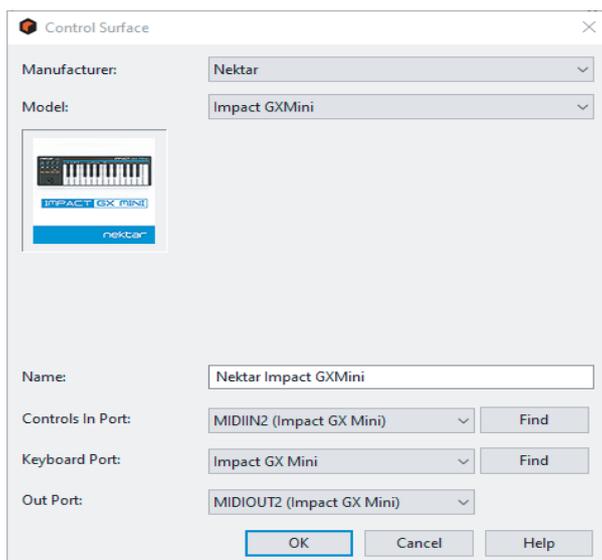
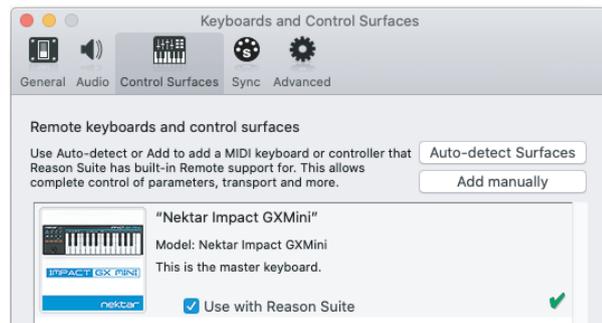
ReasonでImpact GX MiniのMIDIポートを手動設定する場合、以下の手順に従います：

- Reasonを起動し、環境設定からコントローラーを開き、“追加”ボタンを押します。
- Impact GX Miniを追加し、画像例の通りにポートを設定します。

Windows



macOS



DAW設定ガイド - Reason と Impact GX Mini

Reasonでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はReasonの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうか見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	選択トラックのミュート	Shift + Click	アンドゥ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し、 押したままで連続巻戻	S2	選択トラックの ソロ	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り、 押したままで連続早送	S3	トラックオートメーション オン	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	上のトラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作で 左ロケーターに移動	Track ▶	下のトラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	前デバイスパッチ*	Shift + ▶	プリカウント オン/オフ
●	録音	Patch ▶	次デバイスパッチ*	Shift + ●	録音クオンタイズ オン/オフ

*選択トラックにデバイスが設定されている場合のみ機能します。

DAW設定ガイド - Sonar

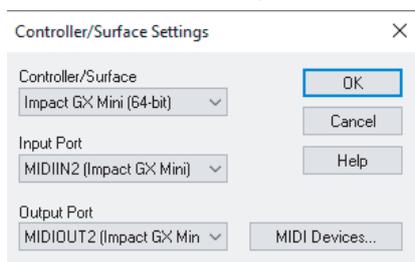
Impact GX Miniは、最新バージョンのCakewalk、およびWindows 7以降／バージョン8.5以降のSonarと連動し、動作します。

設定

Impact GX MiniとCakewalk Sonarの設定は以下の通りです：

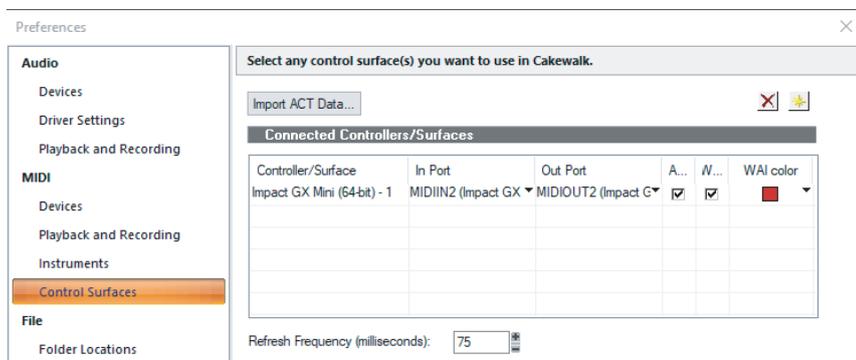
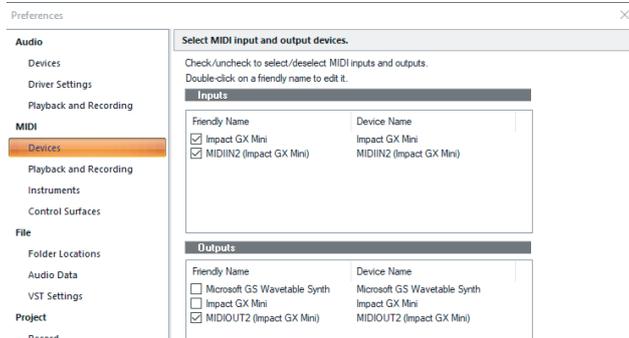
- Sonarを起動していない状態で、ダウンロードしたインテグレーションファイル：Impact_GX-LX_Mini_Cakewalk_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Sonarを起動して、編集 > 環境設定 > MIDIのデバイスをクリックし、設定を表示します。
- 入力の項目でImpact GX MiniとMIDIIN2 (Impact GX Mini)、出力の項目でチェックが入っていることを確認し、“適用”ボタンを押します。
- 続いてSonarの(編集 > 環境設定 > MIDIの)コントロールサーフェスをクリックし、設定を表示します。
- 画面右上の黄色の星アイコンをクリックし、コントローラー/サーフェス設定画面を開き、次の通りに設定します：

コントローラー/サーフェス：Impact GX Mini
入力ポート：MIDIIN2 (Impact GX Mini)
出力ポート：MIDIOUT2 (Impact GX Mini)



- 設定完了後、OKボタンをクリックして画面を閉じます。
- コントロールサーフェスが正しく設定されると画面のように表示されます。問題なければ“適用”ボタンを押し、環境設定画面を閉じます。

以上で設定は完了です。



DAW設定ガイド - Sonar と Impact GX Mini

Sonarでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はSonarの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く、 二回押しで閉じる	Shift + Click	アンドウ(Undo)
⏮	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く 二回押しで閉じる	Shift + ⏮	左ロケーターに移動
⏭	1小節早送り	S3	設定なし	Shift + ⏭	右ロケーターに移動
🔄	サイクル(ループ) オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + 🔄	左ロケーターを設定
■	停止	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生	◀ Patch	ラック内の 前インストゥルメント*	Shift + ▶	設定なし
●	録音	Patch ▶	ラック内の 次インストゥルメント*	Shift + ●	選択トラックの 録音待機(アーム)

*インストゥルメント画面を切り替えるには、Patchボタンでまずインストゥルメントラックをナビゲートする必要があります。

DAW設定ガイド - Studio One

Impact GX Miniは、Presonusインテグレーションファイルでバージョン4.0以降のStudio Oneと連動します。ただし、最新バージョンにアップデートすることを推奨しています。

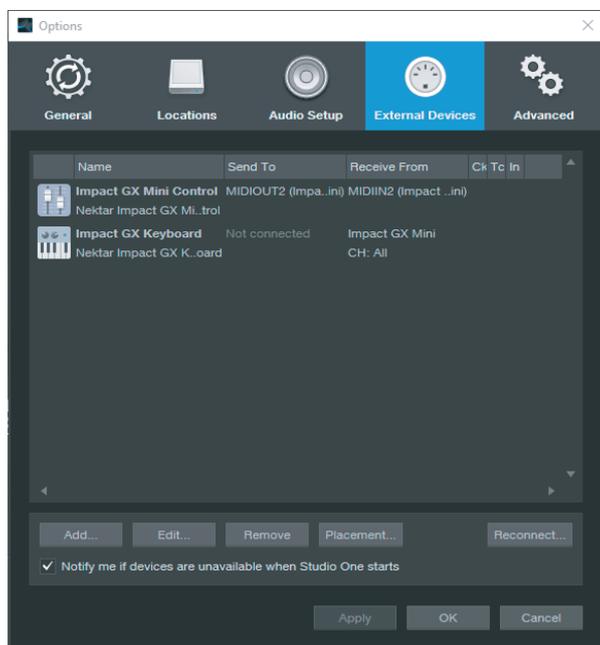
設定

Impact GX MiniとPresonus Studio Oneの設定は以下の通りです：

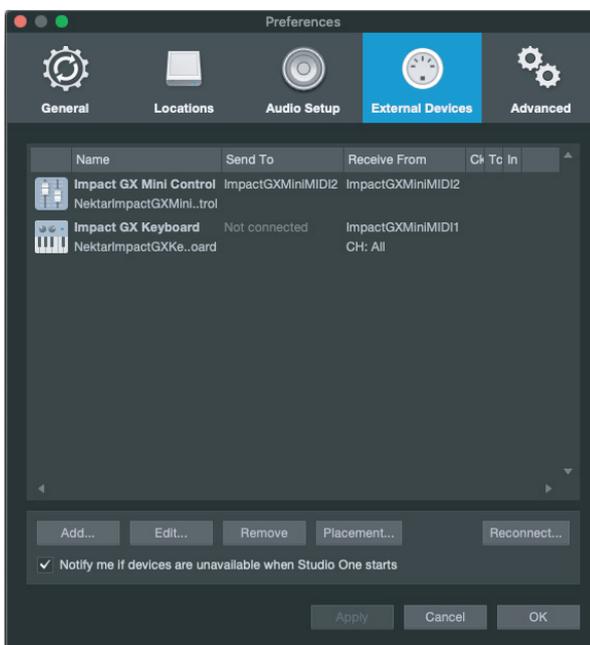
- Studio Oneを起動していない状態で、ダウンロードをしたインテグレーションファイル:Impact_GX-LX_Mini_Presonus_supportのインストーラーを実行し、画面に従ってインストールを完了します。
- Impact GX Miniをコンピューターに接続し、電源を投入します。
- Studio Oneを起動し、“環境設定”から“外部デバイス設定”を開きます。ここで画面上にImpactのデバイスが2つ見えていれば、“OK”ボタンをクリックします。
- 新しいプロジェクトの作成、または既存のプロジェクトを開きます。
- Impact GX Miniの再生ボタンを押してStudio Oneのシーケンスが連動するかどうかを確認します。問題なければ設定は完了です。

画面例のようになっていれば、設定完了です：

Windows



macOS



トラブルシューティング

もしも、画面上にImpact GX Miniが1つ、あるいは何も見えない場合、以下の手順に従って手動で設定を行います：

- “環境設定”から“外部デバイス設定”を開きます。
- “追加”ボタンをクリックして手動でデバイスを追加します。
- 画面から見失っている“Impact ... Control”と“Impact ... Keyboard”をNektarフォルダから選択の上、OKボタンをクリックします。
- 設定後、“受信元”と“送信先”ポートの設定が以下の通りになっていることを確認します：

OS X環境

Impact LX ... Keyboard > 受信元 = IMPACT ... Port 1 / 送信先 = IMPACT ... Port 1

Impact LX__ Control > 受信元 = IMPACT ... Port 2 / 送信先 = なし

Windows 環境

Impact LX ... Keyboard > 受信元 = IMPACT ... / 送信先 = IMPACT ...

Impact LX__ Control > 受信元 = MIDIIN2 (IMPACT ...) / 送信先 = なし

- 問題なければ、“OK”ボタンをクリックします。

DAW設定ガイド - Studio One と Impact GX Mini

Studio Oneでは、Impact GX Miniを使用して以下の操作が行えます。

下表はStudio Oneの操作一覧です。まずは再生ボタンを押してシーケンスの再生が反応するかどうかを確認の上、表の機能が正しく動作するかどうかを見てみましょう。

青色LEDボタンオフ時		青色LEDボタンオン時		Shiftボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	クリックのオン/オフ	S1	ミキサーを開く/閉じる	Shift + Click	アンドウ(Undo)
◀◀	1小節巻戻し	S2	インストゥルメントを開く/閉じる	Shift + ◀◀	左ロケーターに移動
▶▶	1小節早送り	S3	ブラウザを開く/閉じる	Shift + ▶▶	右ロケーターに移動
↺	サイクル(ループ)オン/オフ	◀ Track	前トラックを選択	Shift + ↺	左ロケーターを設定
■	停止、再操作で再生	Track ▶	次トラックを選択	Shift + ■	右ロケーターを設定
▶	再生、再操作でポーズ	◀ Patch	インストゥルメントパッチ切り替え:一つ前	Shift + ▶	プリカウント
●	録音	Patch ▶	インストゥルメントパッチ切り替え:一つ次	Shift + ●	入力クオンタイズのオン/オフ

Nektar DAWインテグレーションを使用しないトランスポート設定

前述の通り、Nektar DAWインテグレーションファイルによって、Impactのトランスポートコントロールは自動でDAWのトランスポートの操作に割り当てられます。一方、お使いのDAWがこれに対応していなくても、ImpactとDAW側でMIDI Machine Control (MMC) の設定を行うことで、トランスポートコントロールが可能となる場合があります。

以下の操作で、Impact GX MiniはMIDI Machine Control (MMC) 情報を扱うことが可能になります：

- “Setup”ボタンを押します。
- Impact GX Miniの鍵盤：C2 (USB Port Modeとパネル印字されています)を押します。“Setup”ボタンが点滅します。
- 鍵盤：G#1 (3とパネル印字されています)を押します。
- 鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています)を押して、設定を適用します。“Setup”ボタンが消灯します。

以上で、Impact GX Miniは下表の通りのMMC情報を送信することができます：

ボタン	機能
Click	設定なし
◀◀	巻戻し
▶▶	早送り
↺	設定なし
■	停止
▶	再生
●	録音

DAW設定ガイド - Pro Tools

Avid Pro Toolsでは他のDAWと異なり、インテグレーションファイルを使用しません。Impact GX Miniからトランスポート操作を行う場合、Impact GX MiniとProToolsの両方で設定が必要です。

Impact GX miniのUSBポート設定をProToolsモード(=4)にします。設定手順については、次の通りです：

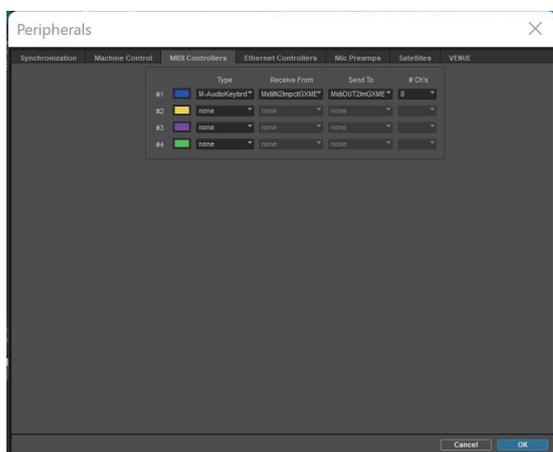
- “Setup”ボタンを押して、設定モードに入った後、Impact GXの鍵盤：C2 (USB Port Modeとパネル印字されています)を押します。
- 鍵盤：A#1 (4とパネル印字されています)を押します。
- 鍵盤：C3 (Enterとパネル印字されています)を押して、設定を適用します。Setupボタンが消灯します。

Pro Toolsの設定手順については、次の通りです：

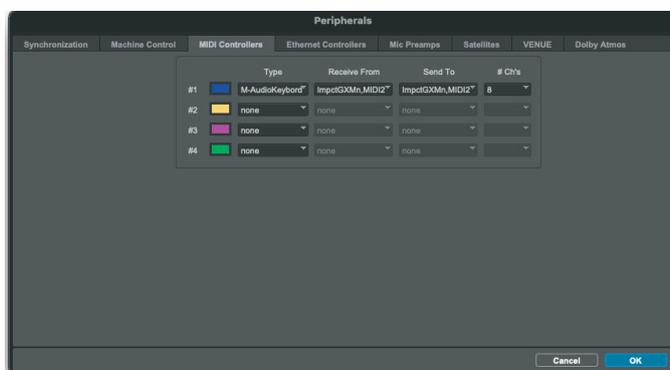
- ProToolsを起動し、“設定”メニューから“ペリフェラル”を選択し、MIDIコントローラタブのクリックで設定画面を開きます。
- MIDIコントローラ画面で次の通りに設定します：
 - タイプ = M-Audio Keyboard
 - 受信元 = Impact ... MIDI 2 (OSX)、MIDIIN2 (IMPACT ...) [エミュレート] (Windows)
 - 送信先 = Impact ... MIDI 1 (OSX)、IMPACT ... [エミュレート] (Windows)
- 設定終了後、“OK”ボタンをクリックして画面を閉じます。

画面例のようになっていれば、設定完了です：

Windows



macOS



設定を完了すると以下の機能にアクセスできます。

青色LEDボタンオフ時		Shiftボタン併用時		ループボタン併用時	
ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター	ボタン	パラメーター
Click	設定なし	S1	選択トラックのミュート		ループ再生
	巻戻し	S2	選択トラックのソロ		ループ録音
	早送り	S3	設定なし		アンドゥ (Undo)
	他のボタンとの併用に使用します	◀ Track	前トラックを選択		プロジェクト頭に戻る
	停止	Track ▶	次トラックを選択		プロジェクト終端に移動
	再生	◀ Patch	表示を1バンク (8トラック) 分、前にジャンプ		
	録音待機	Patch ▶	表示を1バンク (8トラック) 分、次にジャンプ		

www.hookup.co.jp

HOOK UP, INC.

日本総輸入代理店株式会社フックアップ
Designed by Nektar Technology, Inc
Made in China

nektar